

デジタルハリウッド大学の研究紀要『DHU JOURNAL Vol.12 (2025)』の刊行にあたり、刊行のご挨拶を申し上げます。本号の編集にあたっては、これまでの刊行方針を継承しつつも、研究成果の位置づけや発表形式をより明確にし、学術的な発展性を高めることを意図しました。

Vol.12より、これまで「報告」としていた種別を「研究報告」に改めました。これは、単なる活動報告としてではなく、研究としての性格を持ち、今後の学術的発展へとつながる可能性を秘めたものとして位置づけるためです。投稿された原稿は、この新たな基準に基づいて採録を判断いたしました。その結果、掲載された研究報告は、授業実践や教育活動の成果をデータや裏付け資料に基づいて論理的に検証した内容となっております。

Vol.12には、教員、職員、大学院生のみならず修了生の研究成果も掲載されています。教員と職員による共著の報告が見られたことも付記いたします。このような協働的研究の形は、本学における知的共創の文化とその実践のあり方を示すものと考えます。本号では、論文として採録された原稿の掲載はありません。これは、論文として投稿された原稿が論文基準にはあと一歩及ばず、「研究ノート」として採録されたためです。DHU JOURNALは、デジタルコンテンツおよび関連領域を専門とする高等教育機関の学術誌として、一定の学術的基準を維持し、論文の質の維持と向上を重視しています。その一方で、投稿された研究は新たな課題意識と研究領域への挑戦を示すものであり、今後の発展に大きな期待が寄せられます。

デジタルハリウッド大学研究紀要は、知の創造と共有を通じて、新たな研究の可能性を切り拓くことを目指しています。本研究紀要に集う多様な視点と実践が、次代の学びと研究を形づくる原動力となることを願っております。皆さまの積極的なご寄稿をお待ちするとともに、本学の教育研究活動にさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

編集幹事 Chief Editor

山崎 敦子 YAMAZAKI Atsuko

Digital Hollywood University, Graduate School, Specially Appointed Professor